

3 学期始業式校長講話要旨

○新年あけましておめでとう

2025年、令和7年が明けました。今年は昭和でいうと、昭和100年になります。昭和100年とはいえ、大正15（1926）年12月25日に大正天皇が亡くなり、即日改元で、その日に昭和元年になりました。1926年12月25日は大正15年であり、昭和元年ということになります。昭和元年は僅かに1週間でした。昭和天皇が昭和64（1989）年1月7日に亡くなり、翌日改元で1月8日から平成元年になりました。昭和64年も1週間でした。ですから昭和は64年間というより、実質は62年と最初と最後の2週間ということになります。

1968（昭和43）年は、明治100年に当たり明治百年記念として、様々な行事が行われましたが、昭和百年の事業は何があるのでしょうか。

○年賀、年賀状の由来

去年の10月1日に郵便料金が値上げとなりました。年賀はがきもこれまで63円だったものが85円になり、このことも契機となり、年賀状の配達枚数はかなり減少したようです。

皆さんは年賀状を送った、あるいはもらったことはありますか？

年賀状の歴史は古く、平安時代までさかのぼると言われていますが、確証はありません。平安時代頃からは年の初めにお世話になった人や親族の家をまわって挨拶をする年始回りの習慣が広まりました。これは昭和の時代あたりまで広く行われていました。

江戸時代になると付き合いが広くなり、書状で挨拶を済ませることも増えていきました。新年を祝う書状を届けるのには飛脚が活躍しました。年始回りを簡略化したものが年賀状のルーツだといわれています。

明治4年（1871年）に郵便制度が始まり、明治6年（1873年）に郵便はがきの発行が始まりました。定額の切手を貼れば全国一律（北海道から沖縄まで）に、はがきや手紙などを送ることができるというのが近代国家としての証しであったので、明治政府は近代郵便制度をつくり、鉄道網の整備とともに、通信手段を作っていました。

明治20年（1887年）頃には郵便制度が充実して、年賀状も激増してきました。元日の消印をねらって年末に投函する人も増え、郵便局員たちは文字通り、不眠不休で消印作業にあたったそうです。現在と同じように年末のうちに受け付けて元日に配達する年賀郵便の特別取扱いが明治32年（1899年）に導入され、徐々に全国に広がりました。明治38年（1905年）には約1億枚だった年賀状もピークの平成16年（2004年）には約44億5000万枚まで増えたそうです。今年（2025年）の年賀はがきの当初発行枚数は10億7000万枚で、昨年（2024年）の14億4000万枚から25.7%も大きく減少し、最盛期と比べると1/4程度に減少しました。

また、大正12（1923）年の関東大震災や、大正天皇が亡くなった大正15年は、その翌年の配達分の特別取扱いが中止になっています。戦前の時代では、物資の節約のため昭和16（1941）年から年賀状の特別取扱いが廃止されました。日米開戦はこの年の12月ですから、アメリカとの戦争前から郵便事情は戦時体制だったということでしょう。この年の東京中央郵便局が集配した年賀状は1/3に減少したそうです。

終戦後の昭和23（1948）年には、年賀状の特別取扱いと年賀切手の発行が再開されました。こ

の年から年賀切手の図柄が干支にちなんだ郷土玩具のものになりました。翌年の昭和24(1949)年からお年玉付き年賀はがきが発行され、大きな話題を呼びこれを機に年賀状の取扱量は急激に伸びていきました。

本来多くの高校では、アルバイトは禁止が原則ですが、年末年始の年賀状の郵便配達だけは別で、私も高校1年2年の時は年賀状配達のアバイトを、高校の同級生たちと一緒にしました。今から50年近く前のことです。そのくらい年賀状の配達枚数は多かったのです。

平成29(2017)年6月1日に郵便料金が値上げされ、通常はがきも52円から62円とされましたが、平成30年(2018)年用に限り年賀はがきは旧料金の52円のままとしました。これは年賀はがきの発行枚数の減少を食い止める効果を期待しての値段据え置きでしたが、結果として総発行枚数は前年比より5.6%減少しました。翌年から通常はがきと年賀はがきは同一の料金となりました。今回の郵便料金の値上げでも年賀はがきは値上げ前の料金で通用するかと思いましたが、7年前のことがあるので同じく値上げされたのでしょうか。

SNSなど通信手段が多様化したことと、個人情報の管理から自宅の住所を公開することもなくなることで、そもそも年賀状を送る習慣がない世代が増えてきたため、正月の年賀状もそのうちなくなってしまうのかもしれない。

○進路について考える

「世に生を得るは事をなすにあり」とは幕末の坂本龍馬の有名な言葉です。これは、人間、生まれたからには大きな仕事を一つ仕上げようという意味です。これから皆さんがどういった目標をもって人生を生きるかが問われています。

歌人の九条武子の言葉に

「自分の生命を打ち込むことの出来る仕事を、もっているものは幸福である。そこに如何なる苦難が押し寄せようとも、たえざる感謝と新しき力のもとに生きてゆくことが出来る。生命は仕事とともに不滅である」

自分のやりたいことが見つかって、そのことに一生懸命に打ち込むことが大事です。自分が打ち込むことの出来るものを見つける、そのきっかけだけでもいいから、本校の生活の中で見つけてください。

勉強という文字について考えてみましょう。勉強の勉は訓読みでは「つとめる」と読みます。強はしいるとも読みます。勉強とは「つとめてしいる」ことという意味にもなるでしょう。中学生、高校生、十代の時期は自分自身で「つとめて しいる」時期ではないでしょうか。この場合、勉強・学習だけではありません。部活動やほかの活動等、様々な学校生活で、自分で自分に対して「つとめて しいる」。そうしないと成長できません。中学・高校の時期になるべく沢山の経験をしてほしいと思います。

「二兎を追うもの一兎も得ず」という言葉があります。二つのことを同時進行で行うと、両方とも得ることができないという意味ですが、皆さんのこの時期には「二兎を追う」ことも必要です。学習も部活動も併せて「二兎を追う」、あるいは他も加えて「三兎を追う」、この時期だからこそできるのです。「つとめて しいる」その結果、得るもの成長することは大きいと思います。

新年度の始まりの気概、意気込みとしてのお話をしました。